

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第8回理事会 開催日：11月21日。出席者：佐野会長
他31名。

会議事項

1. 昭和42年度秋季講演大会収支決算報告

収支バランスは下記の通り

収入の部	
補助金	1300千円
見学会、懇親会費	402 〃
地元分担金	200 〃
計	1902 〃
支出の部	
講演会場費	411 〃
会場運営費	415 〃
見学会	300 〃
レディースプログラム	49 〃
懇親会費	294 〃
実行委員会茶菓代運搬費	162 〃
準備費	179 〃
計	1810 〃
残	92千円

2. 昭和43年度秋季講演大会について

期日：43年9月21日(土)、22日(日)、23日(祭)

場所：東北大学工学部

金属学会会長を委員長、鉄鋼協会東北支部長と金属学会在仙副会長を副委員長（会長が仙台以外から選出の場合、在仙の副会長）とする比較的小規模の実行委員会を考えている。仙台市長が顧問になり、寄付を仰ぐことになるが地元あまり迷惑のかからぬようにしたい。

企 画 委 員 会

第8回委員会 開催日：11月17日。出席者：吉崎企画委員長他15名。

会議事項

1. 来年度予算編成方針について

収入の面では維持会費は本年と同じく横すべりで、その他あまり変更になる要素はない。支出の面では会誌費のしめるウェートが大きいため、早急に予算を編成する。調査研究費の中、国際会議準備委員会費は、国際会議の組織委員会ができ、会計の委員会ができ次第そちらに移行し、この科目はなくなる予定。事務費は物価増で10%増で1千万円は自然増となる。

2. 第13回「材料の強度と疲労に関する総合シンポジウム」代表推薦の件。

鈴木正敏君（編集委員、金属材料技術研究所加工研究室長）を推薦した。

研 究 委 員 会

第8回委員会 開催日：11月21日。出席者：三本木委

員長他22名。

会議事項

1. 報告事項

1) 技術講座小委員会報告

2) 1970年鉄鋼技術国際会議報告

2. 討議事項

1) 講演大会の運営について

事務局より提出した講演大会運営委員会案につき討議が行なわれ、今後の進め方として共研の意見もと入れ引き続き検討していくことになった。

2) 昭和43年度研究関係予算案について

全般的な予算に関し事務局案が了承され総額約420万円に内定した。なお、特別研究費はキルド鋼の後始末と純鉄グループにつけることになった。

3) 大型プロジェクトについて

研究委員会の下に大型プロジェクト小委員会をつくりここで具体的な検討を行ない、もし可能であれば43年6月までに通産省に対する答申案をまとめることになった。

編 集 委 員 会

第10回和文会誌分科会

開催日：12月12日。出席者：荒木主査他18名。

会議事項

1. 論文審査報告

2. 「鉄と鋼」第54年第2号（2月号）論文選定について論文4件、特別講演1件、報告3件の掲載が決定した。

3. 技術資料3件の推せんがあり、著者の意向を尋ねた後依頼することになった。

4. 「鉄と鋼」の活字の大きさ、行間のとり方など印刷一般についての検討が行なわれ、版組を一部修正することになった。なお見本組を見た結果さらに検討の予定。

第10回欧文会誌分科会

開催日：12月18日。出席者：橋口主査他6名。

会議事項

1. 5論文について論文審査報告がなされ、すべて掲載可とされた。

2. 執筆勧誘論文として16件が推薦され、そのうち11件に執筆を勧誘することに決定。残りは次回分科会で審議する。

3. 東北大学選鉱製錬研究所の大谷正康君に新しく分科会委員を委嘱することに決定した。

4. Transactions ISIJ 購読勧誘状送付について。鉄鋼協会に寄贈されている学術誌のなかから、Transactions ISIJ を送付して交換にした方がよいところを主査がチェックすることに決まった。

5. 会長、副会長の写真を掲載するページの体裁は英文校閲委員が検討することとなった。

資 料 委 員 会

第7回委員会 開催日: 12月22日. 出席者: 草川委員長他12名.

会議事項

1. BISRA の研究所の報告書の “Open Report” を発行したら自動的に送付してもらい全冊揃えることになった.

2. 1月号の“資料室だより”は「冶金工程の物理化学的原理」をテーマとした. 訪ソシンポジウムの資料を掲載することにした.

3. BISI の Translation の来年度の購入計画については, 8社には全冊購入してもらうよう努力することにした.

4. “鉄と鋼”の分類については, ドクメンテーション協会に委託したが, 解答をまつことになった.

共 同 研 究 会

運 営 委 員 会

第2回委員会 開催日: 11月29日. 出席者: 佐野会長他28名.

会議事項

1. 事務報告. 前回(5月24日)以降の部会長, 分科会主査の異動および部会, 分科会などの開催状況について報告があった.

2. 部会経過報告. 製鉄部会をはじめ, 13部会, 21分科会. などの活動状況について各部会より報告があった.

(1) 特徴点として, 部会運営について, 参加者が多く, テーマごとにグループ分けをしたり, 小委員会を作ったりして部会を発展させている報告があった.

(2) 庄延関連部会, 分析部会で標準化委員会からの委託により JIS 原案の作成を行なっている報告があった.

3. 部会運営について. 吉崎企画委員長も参加されて部会の運営について話合われ, 今後とも部会運営について検討を進めることになった.

4. 来年度予算要求額について. 各部会, 分科会の予算要求額について提出資料 3-(15)に基づき報告があり, 承認された.

5. 協会講演大会運営委員会の設置について. 事務局私案が提出され, いろいろ討議した. 講演大会をよりよくするため今後とも検討を進めることになった.

製 鉄 部 会

第31回部会 開催日: 9月27~29日. 出席者: 萩原幹事他100名.

会議事項

共通議題として下記の2題をとりあげ討議を行なった.

1. 焼結鉱製造技術における原料上の問題について.
2. 高炉炉頂装入装置の保安上の問題点および対策について.

また特別講演として下記の2題の講演があった.

1. 焼結パレット内における原料の粒度および化学成分の偏析について.

2. 和歌山第4高炉の建設と操業について.

製 鋼 部 会

鑄 型 分 科 会

第20回分科会 開催日: 11月16, 17日. 出席者: 岡部主査他90名.

会議事項

今回は従来の一般議題の他に「鑄型設計手順」が資料として提出された.

これは鑄型分科会内に鑄型マニュアル小委員会が昭和39年設けられて営々調査活動を行なつた成果である.

この成果を広く一般に知らしめるため鑄型分科会の委員を通じて希望部数を有価配布することになつている.

鋼 板 部 会

鋼 板 分 科 会

第24回分科会 開催日: 10月19, 20日. 出席者: 富永部会長(代理)他40名.

会議事項

1. 「最近の剪断および精整作業について」

「最近の剪断および精整設備の改善」

「現在の問題点とその対策, 改善方針」の3点に重点をおいた資料が各社より発表され活発な討論が行なわれた. 特に厚板の自動キズ取り装置などの新鋭設備に関した発表に質問が集中した.

2. 協会より, 今後会誌「鉄と鋼」に, 共研で発表された資料のうち適当なものを掲載することになった旨報告があり, 厚板分科会としては次回に推せん論文を決定することを確認.

3. 会議終了後, 神鋼尼崎工場を見学し, 盛会裡に第24回分科会を終つた.

次回は43年5月に三菱製鋼(長崎)で行なう予定.

特 殊 鋼 部 会

第33回部会 開催日: 11月6~11日. 出席者: 中野部会長他92名.

会議事項

今回は北陸地区で開催され, 特別講演として「ステンレス鋼中の非金属介在物」について日本ステンレス直江津製造所研究課の高橋氏より行なわれた後, 「特殊鋼の品質と製造技術に関する研究」, 「品質水準の現状と問題点」の2共通テーマに関して約32の資料が発表され活発な討論が行なわれた.

その後, 不二越, 日本高周波, 日本ステンレスの3工場を見学し, 盛会裡に終了した.

熱 経 済 技 術 部 会

第38回部会 開催日: 10月26, 27日. 出席者: 桑畑部会長他80名.

会議事項

下記の議題に従つて開催された.

議題

- 1) 比例調節型油バーナーについて
- 2) 鉄鋼工場におけるエネルギーバランス
- 3) 工業窯炉のばい煙防止に関する研究
- 4) 経済的空気予熱装置に関する研究
- 5) 炉の設備方式と操業方式の改善効果
- 6) 連結加熱炉能力算定式小委員会報告
- 7) その他

1) の議題についてはバーナーメーカーの出席を得てバーナーの有効活用、保守点検、など広範囲にわたって論議された。次回にはさらに新しい議題を選定して開催する予定である。

計測部会

秤量分科会

第24回分科会 開催日：11月16日。出席者：中沢主査他57名。

会議事項

1. 秤量機の簡易検査

コンベアスケールのテストチエンによる実量との相関について2編、ホッパースケールの分銅による簡易検査について3編の資料が提出された。後者は簡易検査は有効であるが前者は今後の研究課題として残された。

2. 秤量機の動的精度

2編の資料が提出されたが今後さらにデータを積み重ね結論を出すことになった。

3. 秤量機の改善

岩壁コンベアの集中管理、梱包作業の簡易化、転炉スクラップの秤量機改善などすぐれた発展がなされた。

4. 計量法の改正

計量研高橋氏より計量法改正の要点について説明があり、非常に参考になった。

5. 見学

日本鋼管 水江製鉄所の見学を行なった。

新技術開発部会

直接還元法分科会

第17回分科会 開催日：11月28日。出席者松下主査他20名。

会議事項

1. 東北大学不破教授より1967年5月29～31日フランスのエピアンで行なわれた。「予備還元物の製造と使用に関する国際会議」について詳細な報告が行なわれた。

2. 大蔵幹事よりソ連「粉末冶金」に掲載された論文「気体-固体還元剤によるミルスケール還元工業的装置」が紹介された。

3. 日曹製鋼のご好意により八戸工場の見学を行なった。

鉄鋼分析部会

化学分析分科会

第6回分科会 開催日：10月23、24日。出席者：神森

主査他46名。

会議事項

現在 JIS 原案の審議を集中的に行なっているがその進捗状況は次の通りである。

1. 炭素、けい素、マンガン、りん、クロムについては最終案を承認。

2. パナジウム、銅、タングステン、コバルト、アルミニウム、ひ素、すず、などについては次回1月中旬に最終案文を審議。

3. その他の元素については、共同実験を続け次回以後に決定する予定である。

設備技術部会

鉄鋼設備分科会

第2回分科会 開催日：12月7、8日。出席者：上嶋主査他100名。

会議事項

今回は高炉関係各設備のうち特に問題とみなされる点を7項目とりあげ機械メーカーと協同で討議を行なった。高炉関係設備の鉄鋼メーカーの現状を機械メーカーに十分伝え得たものと考えられる。

次回のテーマ、運営方法については別途幹事会で決めることになっている。

鉄鋼生産設備能力調査委員会

製鉄設備部会

平炉設備分科会

第3回分科会 開催日：11月7日。出席者：盛部会長，久芳主査他15名。

会議事項

久芳主査から幹事会の活動の経緯および今回提出資料の総括的な報告があり、ついで幹事会社が分担して調査を進めた分について報告を行なった。

今回の報告書を部分的に若干修正して答申書とすることに意見の一致をみた。

製鋼設備部会

電気炉設備分科会

第3回分科会 開催日：11月6日。出席者：高橋主査他8名。

会議事項

電気炉設備能力算定方式の原案の細部にわたる検討が行なわれ、いままで休止時間、休日時間を考えない生産能力を「年間理想生産能力」としていたが、若干誤解のおそれもあるので「理想」を「最高」に改めること、全社の平均値から出された式のため個々の会社の生産および設備調整には使用できない旨の一文を加えておくことなどが確認された。あとは幹事例で最終案をまとめ、協会に送付、印刷する。

鋼板部会

厚板設備分科会

第5回分科会 開催日：11月10日。出席者：有村主査他

14名。

会議事項

1. 第3回圧延設備総合部会、第7回鉄鋼生産設備能力調査委員会の報告説明があつた。

(1) 記号に一部不統一な点があるため鋼板部会で統一する。

(2) 今回の答申では時間がたりないため、簡略式は作成しない。

(3) 「本算定式は純技術的見地より作成されたものである」という一文を記す。

2. 答申案の検討

細部にわたって幹事がまとめた答申案の検討を行なつた。最終原案は11月末に幹事が作成し委員に配布、11月中旬の鋼板部会で記号の統一などを行ない、算定式を決定する。

ホットストリップ設備分科会

第6回分科会 開催日：11月21日。出席者：黒崎主査代理(幹事)他15名。

会議事項

今回は最初に各社の寸法別理論 T/Hr を説明してもらつて、その後実績 T/Hr との比較を行ない、これをもとに、緩ピッチ係数の見直しについて打ち合わせを行なつた。また、サイズ別に実績 T/Hr/理論T/Hr を出し、これを解析して、ネック設備別や、サイズ別の傾向などを検討することにした。

コールドストリップ設備分科会

第5回分科会 開催日：11月14、15日。出席者：吉田主査他17名。

会議事項

タンデムミル関係では、代表寸法、コイル単重、圧延準備時間、および圧延速度の各項の決定値を確認し、加減速時間を検討することにした。また、幹事試算の T/Hr と、各社提出実績 T/Hr の達成率の、比較を行なつた。

レバース関係では、特に広幅ミル関係を主体に、見直しを検討することになっており、当初の見直しアンケートの主旨にしたがつて、検討を行なつた。

第6回分科会 開催日：12月8、9日。出席者：吉田主査他15名。

会議事項

レバースコールドミル算定式の見直しは、前回(第5回)と同様に、広幅ミルについて、検討を行なうことにし、各社の検討事項となつていた。HHT曲線と幹事案を基本とした T/Hr に対する実績 T/Hr の比較について審議した。また、狭幅レバースミルについても、広幅ミルと同様の方法で検討することにした。

標準化委員会

第8回委員会 開催日：10月16日。出席者：作井委員長他23名。

会議事項

1. めつき鋼板(JISを除く)の厚さ、塗膜呼称と重量算出方法の統一について

普通鋼分科会より、最終報告書が提出され、この呼称および算出方法についてメーカーの内部で協力すること

を申し合わせた。

2. 造船用鋼材の統一記号改訂について

普通鋼分科会より改訂案が提出承認され、造船工業会と今後折衝することになった。

3. ISO 鉄鋼部会の発足について

ISO 規格に日本も積極的に参加し、当協会も力を入れるため、ISO 鉄鋼部会の設置を決定した。

4. JIS 原案分科会発足の件について

工業技術院より委託を受けたJIS原案作成のための各種分科会の発足および構成を決定した。

5. データシート部会設置について

協会が各種データシートを作成するためデータシート部会の設立が承認された。

6. その他

(1) 鉄鋼規格便覧の標準化文献賞授賞について。

(2) モスクワおよびイタリーで開催された ISO/TC 17、および ISO/TC17/WG9, WG8, WG10 への出張報告があつた。

ISO 鉄 鋼 部 会

第2回 TC17/SCI 分科会 開催日：12月7日。出席者：池上主査他9名。

会議事項

1. ISO 本部事務局から回答依頼があつた鋼中いおう分析方法および鋼中けい素分析方法について賛成の回答を出すよう工技院に依頼することを決めた。

2. ISO/TC17/SCI 第4回国際会議につき住友金属工業新見委員より報告が行なわれた。

第3回 TC17/WG10 分科会 開催日：12月6日。出席者：清水主査他19名。

会議事項

1. 9月アーヘンで行なわれた第3回 ISO/TC17/WG10(圧力容器用鋼材)会議の出張報告が、鋼板関係川鉄清水氏、鋼管関係住金桑原氏よりあつた。

2. TC17の結果に基づいて10月ニューヨークで行なわれた第4回 TC11(ボイラ)SCI(材料)会議の出張報告が住金桑原氏よりあつた。

鉄鋼標準試料委員会

第22回委員会 開催日：12月7日。出席者：池上委員長他18名。

会議事項

1. 鉄鋼標準試料分譲状況報告

2. ステンレス鋼シリーズ、アルミニウム専用鋼および印度鉄鉱石の分析が終了した旨報告があつた。

3. フェロアロイについては目下分析方法、成分規格が改訂中でその決定を待つて明年5月頃から製造に着手する予定との報告がフェロアロイ協会よりあつた。

4. 化学分析用微量元素シリーズを川崎製鉄担当で製造することが決定した。

5. 前回決定したほたる石標準試料はその製造目的が鉄鋼メーカーおよび検査会社間の調整にあるので分析担当箇所を検査会社を含めた19事業所とすることで承認を得た。鋼中酸素分析標準試料は200ppm、50~30ppmの順に製造することを決めた。

6. 今回鉄鋼標準試料第1期製造計画が一応終了したので、協会田畑専務理事から感謝の言葉があり乾杯した。

材料試験原子炉利用委員会

第5回委員会 開催日：10月23日。出席者：長谷川委員長他28名。

会議事項

1. 試験片数量および試験方案の検討、再確認を第I～Ⅲ期分にわたって行なつた。pending になつた項目もあつたので、11月4日までに協会まで報告を願い、試験方案集として印刷する。

2. 試験片の仕様については原研側から11月20日までに各社へ送付する。

なお、刻印は次回に示す。

3. 試験片の納入は前期を43年1月、後期を43年6月とする。

第6回委員会 開催日：11月20日。出席者：長谷川委員長他29名。

会議事項

1. 研究方案集が配布され、再確認を行なつた。委員会としての準備段階はこれで終了したことになり、以後は原研と各社との話し合いとなるが、原研側はできるだけ方案の内容を忠実に守っていただくよう要望された。

2. 試片提供の時期については原研と各社との話し合いで決定する。

3. 照射前試験データの報告書は協会に送付することを確認。

4. 試験片のナンバリング要領はJMTR側で一覧表を作成し協会へ送付する。

協会から各社へ送付する。(12月中)

鉄鋼基礎共同研究会

キルド鋼分科会

第13回幹事会 開催日：9月26日。出席者：荒木部会

長他12名。

会議事項

1. 各委員より最終的な研究結果の発表が行なわれた。通産省に対し11月30日までに終了届出書を提出しなければならないので、10月中旬までにいままでの資料をもとに幹事がまとめ、discussion point を指摘した原案を作つて各委員へ送付する。各委員は各々の考え方を幹事に返送し、幹事が次回までにまとめて終了届出書の原案を作成、次回に全員で検討する。

2. 来年度のキルド鋼研究について

一応対通産の研究は終了したことになるがまだ深くつっこむ必要があるので、キルド介在物に興味をもつておられる先生方に参加していただき、協会の研究予算で追加研究を行なう。具体的には次回に検討する。

第14回幹事会 開催日：11月16日。出席者：荒木部会長他12名。

会議事項

1. 幹事より提出された終了届出書の説明が行なわれ、若干の変更がなされた。

この原案に協会が書き加え、11月30日に通産省に提出する。

2. 来年度研究について

来年度はいままでの研究の補充という意味で3人の先生方に加わっていただき、研究成果を単行本として印刷する。

また研究費約90万円獲得のため、テーマを次の通り決定した。

(1) 凝固と介在物の生成機構

(2) 特殊脱酸脱窒剤添加の鋼塊における介在物の挙動

(3) アルミナクラスター生成機構の解明

現在のキルド鋼分科会をキルド鋼小委員会として発足させ、研究内容についての検討は本年1月の準備会で行なう。

第19回毎日工業技術賞受賞者について

本会から推薦した下記業績に受賞が決定しました。

錫なし表面処理鋼板の開発

スーパーコート 八幡製鉄(株)社長 稲山 嘉寛君

キャンスーパー 富士製鉄(株)社長 永野 重雄君

ハイトップ 東洋鋼板(株)社長 横山金三郎君

「材料研究促進と総合研究体制のあり方」シンポジウム表記のシンポジウムが行なわれ、160名にのぼる多数の参加者があり、活発な討論が行なわれた。

主催 日本学術会議材料研究連絡委員会

日時 昭和42年11月20日(月) 13:00～18:00

会場 千代田化工建設(株)本社講堂

司会 5部会員 篠田 軍治

材料研究連絡委員会側発表

1. 材料研究連絡委員会における長期計画の経過について、材研連長期計画小委員長、第5部会員

東北大学教授 横堀 武夫

2. 材料研究促進財団(仮称)について

東工大教授 米沢 慶忠

3. 材料研究における問題点

第5部会員 京大教授 堀尾 正雄

産業界、学会意見発表

機械関係

(株)日立製作所機械研究所長 杉本 正雄

金属関係

住友金属工業(株)専務取締役 小出 秋彦

東北大学教授 幸田 成康

化学および化学工業関係

倉敷レイヨン(株)研究所長 松本 昌一

日本揮発油(株)常務取締役 高木 智雄

電気関係

京大教授 田中 哲郎

土木関係

東大教授 国分 正胤

建築関係

鹿島建設(株)技術研究所副所長 森 徹